

## 05 亜鉛めっき炉デザインの歴史的推移と今後の供給の見通し

Lalit Shahani, PRECIMAX ENGINEERS LIMITED

スライドのみ

高速燃焼フラットフレイム・バーナーによる均一加熱、少ない乱流、ホットスポットの減少、ドロスによる損傷の防止、設定温度 $\pm 2^{\circ}\text{C}$ の温度コントロール等により亜鉛温度の管理がし易い、メンテナンス頻度が少ない、炉の寿命は通常 6～10 年、炉温の変動が少ないことから亜鉛のドロス化の比が小さい、などの特長がある。